

母親役割の概念分析

二川 香里, 長谷川 ともみ

富山大学大学院医学薬学研究部母性看護学

要 旨

本邦における母親役割について概念分析し、構成要素を明らかにして概念を定義することを目的とした。文献検索には、母親役割の概念が看護学においてどのように用いられているのかを検討するため、医学中央雑誌 Ver.5 (1999～2013年)を用い、分析対象は本研究の目的に沿った39件とした。分析方法は、Rodgers の概念分析アプローチを参考とした。属性は、【母親としてのアイデンティティの積み上げ】【自身の成長のための葛藤】【子どもとの相互作用】の3カテゴリーが抽出された。これらより母親役割とは、「子どもとの相互作用を通して、自身の成長のために葛藤し、母親としてのアイデンティティを積み上げる」ことと定義づけられた。先行要件としては、【妊娠するまでの自己形成】【妊娠中の母親観】【産後生活における適応】【ソーシャルサポート】の4カテゴリーが、帰結には、【母親としての自身の成長】【子どもとの絆形成】の2カテゴリーが抽出された。

キーワード

母親役割, 概念分析

はじめに

近年の母子保健における母親のメンタルヘルスに関わる課題として、母親の産後うつ病の減少や幼児虐待防止が挙げられる。健やか親子21の最終評価における産後うつ病疑いの割合は9.0%¹⁾であり、策定時の数値からは減少しているが、妊娠期からの予防的介入の必要性など残された課題がある。また幼児虐待に関しては、児童相談所等への報告件数は年々増加傾向¹⁾にあり、早急な予防対策と支援の充実が望まれている。これらの産後うつ病や幼児虐待の要因には、母親の心理的負担が挙げられている²⁻⁴⁾。産後、慣れない育児や思い描いていた理想とのギャップなど一人の女性が母親になる過程で生じるストレスであり、このような母親に対しては妊娠期からのスムーズな母親役割の獲得が重要であると推測される。

母親役割の獲得については、Rubin⁵⁾がそのプロセスを概念化したものが知られている。そのプロセスは、“模倣”、“空想”、“脱分化”の3つの段階を経て進行するとしている。このRubinの概念モデルは、母親役割の獲得をテーマにした研究の概念枠組みでも多く使用され、参考にされている。しかし、これは40年以上前のアメリカ社会における妊婦を対象とした研究で明らかにされたものであり、現代の本邦における社会的背景にそのまま合致するには難しいと考える。Mercer⁶⁾においても研究背景は同様である。近年の母子の背景は複雑化・多様化してきており、母親役割の獲得プロセスにおいても同様のことが言える。母親役割は、社会的・文化的背景の影響を強く受ける可能性があることから、本邦における母親役割という概念の明瞭化が必要である。母親役割という言葉は、母子の愛着形成や母子相互作用に関連

して広く使用されているが、その定義を吟味し概念的に検討された研究は見当たらない。本研究では、Rubin や Mercer が母親役割の研究対象時期とした周産期から子どもが乳幼児期に分析対象時期を限定し、本邦における母親役割について概念分析し、構成要素を明らかにして概念を定義することを試みた。また、分析結果を踏まえ、母親役割の獲得に関連した支援において、この概念を適用することの可能性について検討する。

研究対象と方法

本邦における母親役割の概念が、看護学においてどのように用いられているのかを検討するため、医学中央雑誌 Ver.5 (1999～2013年)を用いて検索した。キーワードは「母親役割」とし、総説や会議録を除いた検索の結果119件を抽出した。そのうち分析対象文献は、子どもを出産し育てた体験のある日本人女性を研究対象としており、周産期及び子どもが乳幼児期の母親役割について記述している文献39件とした。分析方法は、Rodgers⁷⁾の概念分析アプローチを参考とした。このアプローチでは、概念は時間や状況とともに変化するという立場に基づいており、母親役割という概念の性質上、このアプローチが適していると考えた。対象とした各文献を精読し、文献全体の概要を把握し、「母親役割」とそれに関連する言葉の定義をデータとして抽出した。次に、概念の特性を表す属性、概念の影響要因となる先行要件、概念の結果として生じる出来事である帰結に関する記述内容を抽出した。抽出した各記述をコード化し、コードの共通性と相違性を検討し、カテゴリー化を行った。分析過程での妥当性を高めるために、母性看護学を専門とする研究者1名から

スーパーバイズを受けた。

結 果

母親役割の概念分析の結果として、対象文献における「母親役割」とそれに関連する言葉の定義、属性、先行要件、帰結の内容を以下に述べる。

1. 文献における定義

分析対象文献の中で、母親役割を定義していたものは2件^{8,9)}あった(表1)。母親役割獲得過程や母親役割行動など母親役割に関連する言葉を定義していたものは17件¹⁰⁻²⁶⁾あった(表2)。

2. 属性

属性には、【母親としてのアイデンティティの積み上げ】、【自身の成長のための葛藤】、【子どもとの相互作用】の3つのカテゴリーが抽出された(図1)。カテゴリーは【】内に、サブカテゴリーは<<>>内に示す。

1) 【母親としてのアイデンティティの積み上げ】

このカテゴリーには、<<母親であるという自己意識>><<社会的役割の遂行>>の2つのサブカテゴリーがあった。【母親としてのアイデンティティの積み上げ】とは、妊娠・出産した女性が母親であるという意識を持って、自分自身を見つめるということである。妊娠中に母親としての自己の芽生えがあって妊婦である自己を形成したり、自分なりの母親としての自己を模索したりしていた^{12, 27)}。また、自分はこの子の母親であるという実感も含まれていた^{10, 28)}。母親が就業している場合や上の子どもがある場合には、仕事と子育ての両立に向けて準備する^{28, 29)}、きょうだいの育児と

表1 文献中における「母親役割」の定義

文献 No.	定義されている言葉	定義内容
8	母親役割	母親が子どもに対して適切な養育行動がとれるための能力を獲得し (Mercer) 子どもの母親としての自己を受け入れ、子どもとの絆を形成していく過程 (Rubin), つまり母親役割獲得過程において、発揮される母親の認識や能力である。
9	母親役割	母親であることを受容し、親としての行動がとれること。

表2 文献中における「母親役割」に関連する言葉の定義

文献 No.	定義されている言葉	定義内容
10	親役割獲得	母親が母親としての実感を持ち、子どもの母親としての役割を果たしていると実感できるようになること。
11	母親役割行動	母親がわが子に対してとった一連の言動と態度であり、授乳やおむつ交換などの世話、わが子への語りかけや接触などのコミュニケーションを含む。また、その場面において母親が表現した育児行動に関する判断の過程を含むものとする。
12	妊娠期の母親役割獲得過程	Rubinの5つの操作によって進行する過程。
13	母親役割の自信	双子の育児を今後も遂行できるという可能性や、双子の育児を上手く行うことができるという可能性を感じる事。
14	妊娠期の母親役割獲得過程	妊娠期は母親役割獲得過程の予期的段階にあり、この時期は「母親としての自己」を形成し、母親役割に関する知識を得たり、習得することによって母親としての準備を整える。
15	母親役割獲得プロセス	母親役割能力を達成し、確立している自我に母親である自我を統合するプロセス。妊娠期の母親役割獲得プロセスは、母親役割の模擬体験を材料に空想を行い、母親としての自己像を明確に予測することで達成される。
16	母親役割獲得	産後1か月までの期間に、医療者や家族の支援のもとに、授乳を通して母子の愛着が形成され、母親としての実感や責任感を持つようになる。
17	母親役割行動	母親としての役割意識と行動。母親役割を獲得するということは、気持ちのみではなく、実際に行動に伴っていることが重要であると考え、母親役割意識と行動の両面を含め、児を産み育てる役割、健全な母子関係を形成するための親の意識の高まりや行動の遂行を母親役割の獲得とした。
18	母親役割獲得過程	母親としての自己を形成し、母親役割に関する知識を得たり、技術を習得することによって母親としての準備を整える過程。
18	母親役割行動	子どもを迎えるためにとられる具体的な準備行動である。
19	母親役割獲得過程	母親としての自己を形成し、母親役割に関する知識を得たり、技術を習得することによって母親としての準備を整える過程。妊娠期の母親役割獲得過程には自分自身と胎児の安全な経過を保証しながら、自分自身と子どもが社会的に受け入れられるように他者との関係を構築していく母性発達課題が含まれる。
20	母親役割獲得過程	母親としての役割における能力を獲得していく過程。(Mercer)
21	母親役割獲得過程	母親としての役割における能力を獲得していく過程 (Mercer)。産褥期の母親役割獲得過程は、専門家の指導に従い模倣する"形式的段階"から始まる。それに続いて"非形式的段階"では、わが子との相互作用の経験を通して"試行錯誤"し、"取捨選択"しながら、自分とわが子に適した母親役割へ発展させていく。
22	母親役割獲得過程	母親としての役割における能力を獲得していく過程 (Mercer)。産褥期の母親役割獲得過程は、専門家の指導に従い模倣する"形式的段階"から始まる。それに続いて"非形式的段階"では、わが子との相互作用の経験を通して"試行錯誤"し、"取捨選択"しながら、自分とわが子に適した母親役割へ発展させていく。
23	妊娠期の母親役割獲得プロセス	妊娠期は母親役割獲得過程の予期的段階にあり、この時期は「母親としての自己」を形成し、母親役割に関する知識を習得することによって、心理・社会的に母親になる準備を整える期間である。
24	母親役割獲得過程	母親としての自己を形成し、母親役割に関する知識や技術を習得することによって、母親としての準備を整える過程。
25	母親役割獲得過程	女性が母親としての役割における能力を獲得していく過程。妊娠期は母親役割獲得過程の予期的段階にあり、この時期は母親としての自己を形成し、母親役割に関する知識を得たり、習得したりすることによって母親としての準備を整える。
26	母親役割獲得	母親として責任をもって子どもを育てていく役割を得ること。

いう役割などの社会的な役割も担っていた^{28,30)}。

2) 【自身の成長のための葛藤】

このカテゴリーには、《予期的不安》《母親になることでの制約感》《慣れないことによる不適切な対応》《母親になることの楽しみ》《対処の自己決定》《授乳方法の獲得》《体験からの自己効力感》の7つのサブカテゴリーがあった。【自身の成長のための葛藤】とは、母親が妊娠や出産、育児の過程の中で、自分自身が成長するためにいろいろ試みて失敗を経験することもあるが、自分なりの方策を確立していくということである。母親は、育児への漠然とした不安^{8,31)}、育児への否定的感情や戸惑い^{11,28)}、育児場面における困難や困惑の予測³²⁾といった《予期的不安》を持ち合わせていた。また、自分中心の生活から子どもとの生活への移り変わりに辛さを感じたり²⁸⁾、自身の身体的ニーズと葛藤しながら子どものニーズに応えたり⁸⁾と、《母親になることでの制約感》を抱いていた。そのような感情をもって取り組む妊娠

や育児において、子どものニーズのタイミングを逸した応答や苦痛の伴う授乳⁸⁾という《慣れないことによる不適切な対応》も行われていた。しかし生活の中では、楽しみや子どものかわいさを空想したり^{18,28)}、他の妊婦や子どもに関心を寄せたり¹⁸⁾と《母親になることの楽しみ》もあった。また、わが子の特徴を踏まえた判断¹¹⁾や自分なりの対処方法を見出すこと^{13,28)}で《対処の自己決定》をしていた。育児期においては、授乳方法の確立¹¹⁾に向けて、適切な吸着の調整や効果的な吸着の工夫⁸⁾を行い、《授乳方法の獲得》をしていた。このような楽しみや試みを通して、母親としての効力感や自己肯定感、安定感を得る^{8,13,22)}、子の世話に自信を持つ²⁸⁾という《体験からの自己効力感》があった。

3) 【子どもとの相互作用】

このカテゴリーには、《子どものニーズの読み取り》《子どもとのつながりの希求》《子どもとの関わりから湧き出る意欲》の3つのサブカテゴリーがあった。【子どもとの相互作用】とは、母

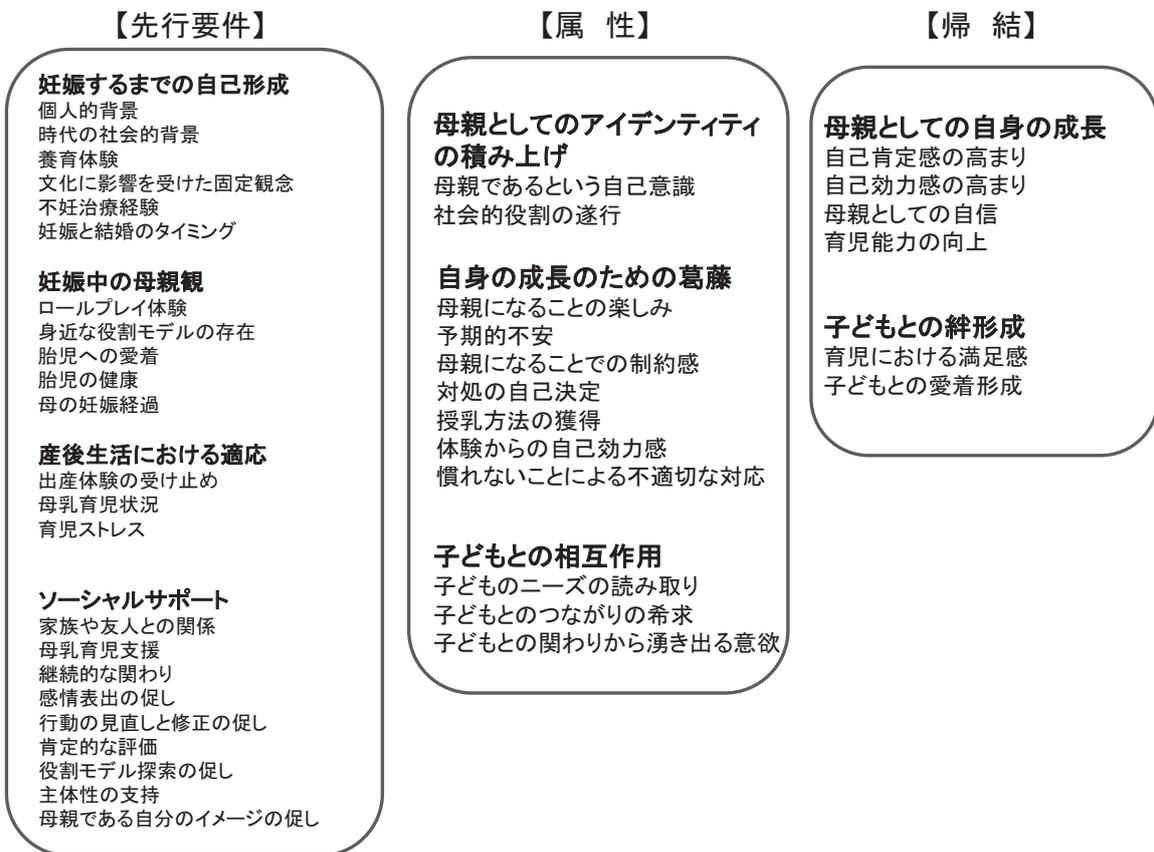


図1 母親役割の概念分析結果

親と子どもが関わりを通して互いに影響し合うということである。子どもとの関わりの中で、子どもを観察し³⁰⁾、子どもの合図のよみとりや確認^{8, 11)}をし、それに応答して世話をする^{11, 33)}ことを繰り返し行っていく「子どものニーズの読み取り」があった。母親は、子どもへの積極的な接近⁸⁾を示し、子に対して溢れる程の愛しさと切なさを抱きながら、この子に寄り添い世話をする²⁸⁾こともあり、「子どもとのつながりの希求」があった。このような子どもとの関わりの中から、母親は妊娠継続や育児における意欲や励みを感じており^{13, 33, 34)}、母親になるという意識を持っていた³⁵⁾。これは関わりの中から生じたものであり、「子どもとの関わりから湧き出る意欲」であった。

3. 先行要件

先行要件には、【妊娠するまでの自己形成】、【妊娠中の母親観】、【産後生活における適応】、【ソーシャルサポート】の4つのカテゴリーが抽出された(図1)。カテゴリーは【】内に、サブカテゴリーは<<>>内に示す。

1) 【妊娠するまでの自己形成】

このカテゴリーには、「個人的背景」<<時代の社会的背景>>「養育体験」<<文化に影響を受けた固定観念>>「不妊治療経験」<<妊娠と結婚のタイミング>>の6つのサブカテゴリーがあった。【妊娠するまでの自己形成】とは、妊娠前の母親の人格形成過程である。年齢や婚姻期間、職業、家族形態などの「個人的背景」^{23, 28, 32, 36)}や「時代の社会的背景」^{14, 37)}は母親役割に影響すると述べられていた。また、妊娠するまでに子どもと関わる体験である「養育体験」の違いによっても母親役割行動の差に現れていた^{31, 38)}。また、母親自身が成育環境の中で育んだ、母親とはこういうものである、こうすべきであるという観念を持っており、「文化に影響を受けた固定観念」^{11, 12, 17, 24, 38-41)}もあった。不妊治療による妊娠では、母親役割獲得過程に困難性がある^{12, 27)}、妊娠先行型結婚と結婚後妊娠群の比較¹⁷⁾といった「不妊治療経験」および「妊娠と結婚のタイミング」も要件として含まれていた。

2) 【妊娠中の母親観】

このカテゴリーには、「身近な役割モデルの存在」<<ロールプレイ体験>>「胎児への愛着」<<胎児の健康>>「母の妊娠経過」の5つのサブカテゴリーがあった。【妊娠中の母親観】とは、妊娠してから形成される母親になることに対する意識である。妊娠中に育児場面を見たり、育児の話題ができたりする「身近な役割モデルの存在」^{14, 19, 41)}は、母親自身に母親になるイメージを形成させていた。また、集団指導などにおける「ロールプレイ体験」^{23, 39, 41)}もまた母親役割に影響し、ロールプレイの失敗体験があると、母親役割獲得プロセスにマイナスの影響を与える可能性²³⁾について述べられていた。胎児への話しかけを行うなど、妊娠中の胎児との相互作用が母親役割に影響していた^{8, 17, 22, 40)}。また、児の性別の判定も影響を与えている可能性があった¹⁸⁾。母親は妊娠中に、このような「胎児への愛着」を抱き出産に向かうわけだが、母親が出産に対してどのように感じているかということも要件にあがった。「胎児の健康」と「母の妊娠経過」として、早産などの妊娠経過における異常の有無が母親役割獲得の阻害因子になっていた^{10, 18)}。また、正常妊娠経過からの逸脱によっても母親は自信を失い、育児不安を感じやすい³⁴⁾ことがあった。

3) 【産後生活における適応】

このカテゴリーには、「出産体験の受け止め」<<母乳育児状況>>「育児ストレス」の3つのサブカテゴリーがあった。【産後生活における適応】とは、産褥における母親の出産の受け止めと育児状況である。母親が緊急帝王切開への認識を修正・統合することで出産体験に意味を見出し、精神的に再起して母親役割に適応することが可能である⁴²⁾、分娩を脅威として認知することは母親役割獲得の阻害因子の1つとなった⁴³⁾という「出産体験の受け止め」があった。産後においては、母乳育児に関連した母親の状況についての報告があり、母乳育児に関連した大変さ⁹⁾や1カ月時に母乳栄養が確立していること³⁶⁾などがあった。母乳育児のスキルを獲得する中で母親は役割の獲得を行っている⁸⁾とも述べられ、「母乳育児状況」が母親役割に影響を及ぼすとしていた。また母親の育児

に対する受け止めとして、想像以上に大変な育児や育児に関連した否定的な感情⁹⁾、初めて経験する行事に関するストレス³⁸⁾なども「育児ストレス」としてあった。

4) 【ソーシャルサポート】

このカテゴリーには、「役割モデル模索の促し」「母親である自分のイメージの促し」「継続的な関わり」「感情表出の促し」「行動の見直しと修正の促し」「肯定的な評価」「主体性の支持」「母乳育児支援」「家族や友人との関係」の9つのサブカテゴリーがあった。【ソーシャルサポート】とは、母親役割獲得を促進するための看護者および周囲の人々の関わりである。妊娠期から産褥期における看護者による様々な支援が母親役割獲得を促進すると報告されていた。妊娠期においては、「役割モデル模索の促し」^{25, 32)}と「母親である自分のイメージの促し」^{14, 23, 25, 32)}が効果的であった。また、妊娠初期からの継続的な関わりとアプローチが母親と看護者の信頼関係を形成する²⁴⁾、母親役割をプロセスとしてとらえ、先を予測して今の達成段階をみる視点¹¹⁾という「継続的な関わり」があった。母親になる過程で経験する否定的および両価的感情や母親になる実感、葛藤など母親が抱く様々な感情を「感情表出の促し」という関わりで支援していた。母親役割準備行動の見直しや行動の意味づけをともに行い、修正へと動機付けること^{8, 25)}も「行動の見直しと修正の促し」として母親役割の獲得に影響していた。母親の行動に対して看護者は賞賛²⁴⁾や保証²¹⁾、自信を高める援助^{11, 21)}という「肯定的な評価」と、その人なりの価値観を受け止め保証する²⁴⁾、自分とわが子にあったやり方の確立を促す²¹⁾、その人なりの母親像の確立を十分に発達させる³²⁾という「主体性の支持」をすることで、母親役割の獲得を円滑にするとあった。「母乳育児支援」として、妊娠中から乳房ケアを通じて母乳育児に向けた支援を行うこと¹⁶⁾や母乳育児における行為の意味づけの強化¹⁰⁾も要件に含まれていた。周囲の人間関係においては、母親役割を獲得するためには、家族の協力が不可欠である^{24, 44)}や子どものいる友人との関係²⁶⁾と「家族や友人との関係」があった。

4. 帰結

帰結には、【母親としての自身の成長】、【子どもとの絆形成】の2つのカテゴリーが抽出された(図1)。

1) 【母親としての自身の成長】

このカテゴリーには、「育児能力の向上」「自己効力感の高まり」「自己肯定感の高まり」「母親としての自信」の4つのサブカテゴリーがあった。【母親としての自身の成長】とは、妊娠や出産、育児を通して母親自身が人間的な成長を遂げるということである。育児を通して母親は、児を観察することで、児の欲求が理解できるようになる⁴⁵⁾、要求に応答する能力²⁰⁾のように「育児能力の向上」があった。そして母親は経験を重ね、自信をつけていくことで自己効力感のスキルが増加していくことが予測されていた³⁸⁾。また、空想作業を高めるために費やした時間は、結果として自己肯定感につながり、悲嘆作業は自分を前向きに捉えることができる²⁴⁾とあった。これらは、母親役割の獲得が「自己効力感の高まり」「自己肯定感の高まり」へとつながっていた。加えて、十分に母乳育児できたことへの自信は、母親役割意識の発展につながった³⁷⁾、知識・技術の自信²⁰⁾のように「母親としての自信」にもつながっていた。

2) 【子どもとの絆形成】

このカテゴリーには、「育児における満足感」「子どもとの愛着形成」の2つのサブカテゴリーがあった。【子どもとの絆形成】とは、母親が子どもとの関わりを通して、子どもと強い結びつきを築くということである。母親は、子どもとの関わりの中で、不安のないスムーズな育児や子どものかかわりと育児の楽しさ⁹⁾を実感し、児や育児への気持ちが前向きになる⁴⁵⁾という「育児における満足感」があった。また、児に話しかけるなどの母親役割行動が愛着形成と関連がある¹⁷⁾、産後「できる」と思える子育て体験のある母親は子どもとの愛着形成がある³⁷⁾と述べられており、「子どもとの愛着形成」につながっていた。

考 察

1. 母親役割の定義

概念分析の結果から、母親役割の属性を用いた定義を以下のように提案する。母親役割とは、「子どもとの相互作用を通して、自身の成長のために葛藤し、母親としてのアイデンティティを積み上げる」ことである。

先行要件にあった【妊娠中の母性観】には、サブカテゴリー「ロールプレイ体験」≪身近な役割モデルの存在≫が、【ソーシャルサポート】にはサブカテゴリー「母親である自分のイメージの促し」≪が含まれていた。これらは、Rubin⁵⁾の母親役割獲得過程にある模倣やロールプレイ、空想と共通するものであるが、それはやはり本邦の研究においてRubin⁵⁾の概念が多く用いられていることが影響していると考えられる。また、母親の意識が【妊娠するまでの自己形成】から【妊娠中の母性観】をへて形成されていく過程は、大日向⁴⁶⁾の「一人の女性が母親として成長していく過程に過去の生育歴が反映されることは事実であったとしても、それはその女性が現在そして将来をどのように生き、また、生きようとしているかによって、過去の経験はその姿を変え、影響力を変える」と同様であると考えられる。【妊娠するまでの自己形成】に含まれたサブカテゴリー「不妊治療経験」≪と「妊娠と結婚のタイミング」≫には、妊娠に至るまでの方法や妊娠と結婚時期との関連についての記述があった。その背景には、生殖補助医療の発展に伴い不妊治療を受けて妊娠する母親の増加や妊娠先行型結婚が社会的に認められてきたという風潮があり、現代の本邦における母親役割を考える時には必要な影響因子であると考えられる。

属性にあった【自身の成長のための葛藤】には、サブカテゴリー「母親になることでの制約感」≪が含まれていた。母親が子どもの育児に専念するが故に、母親自身のニーズが満たされないことで制約感が生じていた。これは、母親が自分よりも子を優先するという母親の愛情の裏付けであり、1971年に山村⁴⁷⁾が分析した日本人に特徴的な母の概念である「自分を無にしてすべてを捧げて子に尽くし、子どもを生き甲斐とする母の姿」を支持

している。このことから、本邦における母親役割には、現代においても伝統的な母性観が影響していると考えられた。また、サブカテゴリー「慣れないことによる不適切な対応」≪には、子どものニーズをうまく捉えられなかったり、数値に依存してしまい子どもの状態を全体的に観察できなかったりする母親についての記述があった。これは初産婦に見られる行動ではあるが、出産前の養育体験やロールプレイ体験が少ないという現代の社会的背景の影響も示唆された。

2. 母親役割の概念をケア実践および教育・研究活動に適用することの可能性

母親役割の帰結から、母親役割獲得の結果、母親の自己肯定感と自己効力感が高まり、母親としての自信が得られ、母親自身の成長が見られることが明らかになった。また子どもに対しては、育児における満足感が得られ、子どもとの愛着形成が進み、子どもとの絆が形成されることも明らかになった。これらは、Mercer⁶⁾の母親役割獲得の段階のうち、「母親が揺るぎないアイデンティティを持ち、子どもに寄り添い、母親役割を果たす能力があると感じる段階である、個人的役割/アイデンティティの獲得」と共通している。この段階は、母親役割獲得の最終段階であり、今回の概念分析における帰結として妥当であると考えられる。これらのことから、母親役割獲得を促進するための看護援助の方向性が示唆される。母親役割の獲得を促進する看護援助としては、先行要件にあった【ソーシャルサポート】が効果的であると考えられる。属性にあった【母親としてのアイデンティティの積み上げ】は、母親が自分自身を見つめる作業であり、その作業を促す看護として「感情表出の促し」≪「行動の見直しと修正の促し」≪「母親である自分のイメージの促し」≪を実践することができる。また産後には、「母乳育児支援」を行い、母親の育児手技に対して「肯定的な評価」≪をすることで母親の育児における自信が高まり、母親役割獲得を促進できると推察される。

今回の概念分析により、本邦における母親役割の概念には、日本人に特徴的な母性観が含まれており、現代の周産期医療技術の現状や家族のあり方に対する認識が影響することが示唆された。看

護実践に向けての示唆として、このような母親の個人的背景やわが国の文化的社会的背景に沿って対象を把握し、母親役割獲得過程のアセスメントを行い、母親役割獲得を促進する看護介入につなげることが重要である。以上、母親役割の概念は、母親役割獲得を促進するための看護援助の方向性を示すことができることから、ケア実践および教育・研究活動に適用できる可能性は十分にあると考えられる。

結 語

本研究の概念分析により、本邦における母親役割とは、「子どもとの相互作用を通して、自身の成長のために葛藤し、母親としてのアイデンティティを積み上げる」ことである。本概念は、母親役割獲得を促進する看護の開発および教育・研究活動に適用可能な概念であると考えられる。

文 献

- 1) 厚生労働省：「健やか親子21」最終評価報告書
<http://rhino.med.yamanashi.ac.jp/sukoyaka/pdf/saisyuuhyouka4.pdf>
(参照日2014-3-6)。
- 2) 北村俊則：周産期メンタルヘルスケアにおける事例と理論。周産期メンタルヘルスケアの理論 産後うつ病発症メカニズムの理解のために、北村俊則編，pp10-11，医学書院，東京，2007。
- 3) Cox J, Holden J：(岡野禎治訳) 産後うつ病：概観。産後うつ病ガイドブック，pp9-10，南山堂，東京，2006。
- 4) 八重樫牧子，小河孝則，田口豊郁ほか：乳幼児を持つ母親の子育て不安に影響を与える要因—子育て不安と児童虐待の関連性—。厚生指標55(13)：1-9，2008。
- 5) Rubin R：(新道幸恵訳) 母親らしさ(母性性)。母性論 母性の主観的体験，pp45-61，医学書院，東京，1997。
- 6) Mercer R：Introduction: Rubin's Theories and Philosophy. *Becoming A Mother*, pp11, Springer Publishing Company, the United States of America, 1995。
- 7) Rodgers B, Knafl K：Concept Analysis: An Evolutionary View. *Concept Development in Nursing* (2nd ed), pp77-102, Saunders, the United States of America, 2000。
- 8) 稲田千晴，北川真理子：産褥期の母乳育児をする母親の母親役割の体験。日本助産学会誌24(1)：40-52，2010。
- 9) 中垣明美，千葉朝子：母親役割獲得支援に向けた産後3～4か月の母親の現在と妊娠中の思いおよび希望する支援の検討。母性衛生53(1)：100-110，2012。
- 10) 田中利枝，氷見桂子：早産児を出産した母親が母乳育児を通して親役割獲得に向かう過程。日本助産学会誌26(2)：242-255，2012。
- 11) 前原邦江，森恵美：産褥早期の授乳場面において看護職者が母親役割行動の観察から行ったアセスメントの内容。千葉看護学会誌14(1)：98-106，2008。
- 12) 森恵美，石井邦子，林ひろみ：不妊治療後の妊婦における母親役割獲得過程。日本生殖看護学会誌4(1)：26-33，2007。
- 13) 小澤治美，森恵美：母親役割の自信につながる双子の母親としての体験—生後4～8ヶ月の双子を養育中の母親を対象にして—。日本母性看護学会誌7(1)：19-26，2007。
- 14) 大平光子，前原澄子，森恵美：妊娠期の母親役割獲得過程を促進する看護の検討(第1報)—“模倣”及び“ロールプレイ”に対する看護介入。母性衛生40(1)：152-159，1999。
- 15) 石井邦子：胎児への敏感性の刺激が低共感性妊婦の母親役割獲得プロセスを促進する効果について。千葉看護学会誌5(2)：13-18，1999。
- 16) 角川志穂：母親役割獲得に向けた継続的授乳指導の効果。母性衛生46(1)：100-110，2005。
- 17) 盛山幸子，島田三恵子：妊娠先行結婚と妊婦の対児感情・母親役割獲得・夫婦関係との関連。日本助産学会誌22(2)：222-232，2008。
- 18) 三澤寿美，小松良子，片桐千鶴ほか：初産婦の母親役割行動に関する研究—Reva Rubinの妊婦の母親役割獲得過程における概念を用いて—。

- 山形保健医療研究 7 : 23-31, 2004.
- 19) 三澤寿美, 片桐千鶴, 小松良子ほか: 母性発達課題に関する研究 (第2報) - 妊娠期にあるはじめて子どもをもつ女性の気持ちに影響を及ぼす要因. 山形保健医療研究 7 : 23-31, 2004.
- 20) 前原邦江: 産褥期の母親役割獲得過程 - 母子相互作用の経験を通して母親役割の自信を獲得していくプロセス. 日本母性看護学会誌 5(1) : 31-37, 2005.
- 21) 前原邦江: 産褥期の母親役割獲得過程を促す看護介入 - 母子相互作用に焦点をあてて -. 日本母性看護学会誌 5(1) : 38-45, 2005.
- 22) 前原邦江: 産褥期の母親役割獲得過程を促進する看護に関する研究 - 母子相互作用に焦点をあてた看護介入の効果. 母性衛生 47(1) : 43-51, 2006.
- 23) 大平光子: 妊娠期の母親役割獲得過程のアセスメント指標に関する試案. 大阪府立看護大学紀要 7(1) : 29-38, 2001.
- 24) 村田さよ子: 15歳の若年妊婦への必要な支援 - Rubinの母親役割獲得過程を用いた分析より -. 奈良県立三室病院看護学雑誌 24 : 98-101, 2008.
- 25) 大月理恵子, 森恵美, 中村康香ほか: 日本における妊娠期の母親役割獲得を促す家族看護の構成概念. 千葉看護学会誌 12(1) : 50-57, 2006.
- 26) 知念久美子, 玉城清子: 一般不妊治療後妊娠した女性の母親役割獲得 - 妊娠・出産期から産後3か月までの主観的体験 -. 沖縄県立看護大学紀要 12 : 725-35, 2011.
- 27) 森恵美, 坂上明子, 前原邦江ほか: 高度生殖医療後の妊婦の母親役割獲得過程を促す看護介入プログラムの開発. 日本母性看護学会誌 11(1) : 19-26, 2011.
- 28) 中沢恵美子, 森恵美, 坂上明子: 35歳以上で初めて出産した女性の産後入院中における母親としての経験. 日本母性看護学会誌 13(1), 17-24, 2013.
- 29) 水野貴子, 中村菜穂, 服部淳子ほか: 小児がん患児の入院初期段階における母親役割の変化と家族の闘病体制形成プロセス (第1報). 日本小児看護学会誌 11(1) : 23-30, 2002.
- 30) 水野貴子, 中村菜穂, 服部淳子ほか: 小児がん患児の入院初期段階における母親役割の変化と家族の闘病体制維持プロセス (第2報). 日本小児看護学会誌 12(1) : 8-15, 2003.
- 31) 葛西佳奈, 栗林佳奈子, 福島洋子ほか: 緊急母体搬送入院直後に分娩にいたった産婦の心理過程の分析. 母性衛生 47(1) : 161-170, 2006.
- 32) 大平光子: 産褥期の母親役割獲得プロセスを促進する看護援助方法に関する研究. 千葉看護学会誌 6(2) : 24-31, 2000.
- 33) 石井歩, 石川紗也, 品川陽子: 極低出生体重児をもつ母親の自己効力感に影響を与える要因. 第38回日本看護学会論文集小児看護, 194-196, 2007.
- 34) 櫻井美幸, 福村友香, 間島佳世乃ほか: 母体搬送後, 長期入院・安静となった母親の思い. 第41回日本看護学会論文集母性看護, 7-10, 2011.
- 35) 小川久貴子, 安達久美子, 恵美須文枝: 10代女性が妊娠を継続するに至った体験. 日本助産学会誌 21(1) : 17-29, 2007.
- 36) 前原邦江, 森恵美: 産褥期における母親役割の自信尺度と母親であることの満足感尺度の開発 信頼性・妥当性の検討. 千葉看護学会誌 27 : 9-18, 2005.
- 37) 板谷裕美, 北川真理子: 人工栄養がなかった時代に子育てをした女性の母乳哺育体験に関する研究. 日本助産学会誌 21(2) : 58-70, 2007.
- 38) 伊藤直美: ライフスキル測定尺度を用いたライフスキル得点の変化とその背景 - 初産婦の妊娠中期と産後1ヶ月時の変化から -. 母性衛生 53(2) : 349-357, 2012.
- 39) 砂川公美子, 田中満由美: 10代で妊娠をした女性が自身の妊娠に適応していくプロセス. 母性衛生 53(2) : 250-258, 2012.
- 40) 磯山あけみ: 第2子妊娠中の女性の育児と就労および支援体制に関する認識. 茨城キリスト教大学看護学部紀要 2(1) : 29-36, 2011.
- 41) 石井邦子, 森恵美, 前原澄子: 妊娠期における母親役割獲得プロセスと共感性の関連について. 日本看護科学学会誌 17(4) : 37-45, 1997.
- 42) 横手直美, 永田真弓, 宮里邦子: 緊急帝王切

- 開で生児を出産した女性の『母親としての再起』の認知プロセス－産褥1週間における主観的体験の質的分析－. 母性衛生46(4): 617-624, 2006.
- 43) 松尾和子: 母親役割獲得のプロセスと援助を考える－ラザルスのストレス認知モデルを用いた分析－. 神奈川県立看護教育大学事例研究収録23: 63-67, 2000.
- 44) 本間美希: 若年褥婦の母親役割獲得に必要なケアの検討. 川崎市立川崎病院事例研究収録14: 31-35, 2012.
- 45) 押川愛恵, 渡邊文, 山崎愛沙: 退院後1週間後フォローが母親に及ぼす心理的影響. 第42回日本看護学会論文集母性看護, 43-46, 2012.
- 46) 大日向雅美: 研究上の視点および本書の展開. 母性の研究, pp49-68, 川島書店, 東京, 1988.
- 47) 山村賢明: 総括と展望 母のコンセプトの基本構造. 日本人と母, pp186-253, 東洋館出版社, 東京, 1971.

Concept analysis of maternal role

Kaori FUTAKAWA, Tomomi HASEGAWA

Department of Maternity Nursing, Graduate School of Medicine and
Pharmaceutical Sciences, University of Toyama

Abstract

The purpose of this study was to analyze the concept of maternal role in Japan and examine the possible applicability of that concept to support achievement of maternal role in the practice of midwifery.

Thirty-nine articles were analyzed using Rodgers's approach to concept analysis. Relevant literature was identified from Ichushi-Web (1999-2013) using the keyword "maternal role". The attributes of maternal role were found to be: 1) build up identity as mother, 2) conflict for own growth, 3) interaction with her baby. The antecedents were 1) formation of personality before pregnancy, 2) view of mother under pregnancy, 3) adaptation to puerperium life, 4) social support. The consequences were 1) growth as a mother, 2) bonds with a baby. The definition of maternal role was as follows: in interaction with baby, mother has conflict for own growth and builds up her identity as mother. This study suggested that the concept of maternal role in Japan was influenced by modern medical technology and recognition to family's state. This concept is applicable to support achievement of maternal role.

Key words

maternal role, concept analysis

